

自主独立の精神をもち、常に建設的な人間

(本校学校教育目標の一部です)

生徒支援部 高橋 憲生

小学生の頃、帰宅するやスキー道具を背負ってロープウェイまで徒歩25分。藻岩山山頂から滑り始めてナイター営業終了21時。石山通のバス停まで滑り降りてバスで帰宅は21時40分。今では考えられない遊び方をしていました。自分の子どもにはさせられないですね。交通事故に遭わないか、スキー道具を人にぶつけたらどうしよう、不審な人に声をかけられないだろうか、お金が不足していないだろうか…と心配です。ではなぜ、携帯電話もない当時にそのようなことができたのでしょうか。おそらく、何かあっても誰かが助けてくれる、そんな人と人とのつながりがあったからなのではないかと想像します。

今も、人と人との温かいつながりはあります。しかし、価値観が多様化していて、良かれと思ったことがそうでもなかった、むしろ迷惑だったなどということがあります。人の気持ちを想像することが難しくなってきたかもしれません。

個よりも集団や組織との調和を優先したのが以前の日本だったとして、現代ではもっと個を大切にしましょうという流れになるのは良いことだと思います。しかし今度は個に目を向けるあまり、全体との調和について考えられなくなってきたという面もあるかもしれません。

学校という集団生活の中では、個と集団について考えさせられる場面が多くあります。教室内に、「寒い」と言う生徒と「暑い」と言う生徒が一緒にいます。「静かに学習したい生徒」と「話し合いで学びたい生徒」が一緒にいます。そのようなときは、調和の方向性を明らかにすることが大切だと思います。それぞれの主張を互いに尊重しつつ、「共に暮らす」、「自分らしく学ぶ」という方向に向かって協調するのです。「私は寒いと感じるけど、暑いと感じる人もいるのだな。共に暮らすということは、そうした人々が互いに譲り合ったり助け合ったりしながらバランスをとることなんだな」などと実感することができたら、将来仕事をするときのヒントとして心に刻まれるかもしれません。

日本の8月はお盆と終戦が話題になります。お盆には、お墓や仏壇の前でお子様と一緒にご先祖様のことに思いをめぐらせ、家族の調和をしてみませんか。終戦について報道等がなされているときには、未来あるたくさんの若者が命を落としたことを話題にするなどして、お子様と将来について話してみませんか。子どもたちが自分の人生を大切に感じ、自分がみんなにとって大切な存在であることに気づかせたいです。子どもたちが自らの個を大切にしつつ、周囲と調和・協調できる人に育ってくれば、日本の未来は安心です。

これから長い夏休みに入ります。夏休みは体を休めたり、普段できなかつたことに挑戦したりして、有意義に過ごさせてほしいです。一方でこうした長期休業が明ける時期には生徒の心において不安定さが増加する傾向にあります。変わった様子（食欲がない、笑顔が少ない等）があれば学校に相談してください。本校ホームページに電話相談窓口を一覧にしてありますので、そういった機関も利用することができます。中島中学校にかかわるすべての人が健康で、有意義に過ごされることを願っています。